

### 第3学年雪組 道徳科授業案

場 所 3年雪組  
授業者 内藤教士

#### 1 主題名 友達と助け合って B(9) [友情、信頼]

教材名 目の前は青空

(出典 光村図書「どうとく3 きみがいちばんひかるとき」)

#### 2 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする価値について

児童にとって、学校生活における友達は重要な存在である。「友達と遊べるから」「友達と一緒に学習活動ができるから」ということが、学校へ来ることの1つの喜びになっていることも多い。

友達関係は、共に学んだり遊んだりすることで、互いに影響し合って構築されるものである。よりよい友達関係を築くには、互いに認め合い、学習活動や生活のさまざまな場面を通して理解し合い、協力し、助け合いながら、信頼することの大切さについて気づくことが必要である。また、性別にとらわれることなく、人として互いに理解し合いながら人間関係を築いていくことが重要であることを忘れてはならない。

##### (2) 児童の実態について

本学級の児童は、男女仲良く遊ぶことができる。休み時間に声を掛け合って遊ぶ姿や木曜日の学級遊びの時間を心待ちにして、みんなで遊びたいという思いをもつ児童が多い。一方で、徐々にクラスの中にも仲よしグループができはじめ、仲の良い友達とそうではない友達との対応の違いが出ている児童もいる。また、集団から外れるような行動をとる友達に心無い言葉を浴びせたり、冷たい行動をとったりする様子も見られる。

そこで、本教材を通して、友達と助け合うことのよさや助け合った後の気持ちよさに気づかせたい。さらには助け合いの輪が広がったときに生まれる一体感の素晴らしさにも気づかせ、多くの友だちとよりよい関係を築いていこうという心情を養いたいと考えた。

#### (3) 教材について

本教材は、遠足という学校行事での出来事を描いた物語である。小高い山に向けて歩みを進めているが、太一の歩みが遅く、前後にいた信二やめぐみが太一に対してイライラをぶつけてしまう。しかし、懸命に歩く太一の姿や太一の優しさに触れることで、信二やめぐみの心が変わり、太一を応援し始める。その助け合いの輪がクラス全体に広がり、助け合うことの良さを感じることを通して、ねらいに迫るものである。

#### 3 「考え、議論する」授業の実現に向けて

全体的に心温まるストーリーである。そこで、教材を読んで一番すてきだった場面を話し合いたいと考える。信二やめぐみの対応や周りの友達との一体感、または、太一の頑張る姿。児童がどこに目を向けるのかは、児童の生活経験によるところも多い。だからこそ友達の発言から、物語に隠れる人間関係のよさを、話し合いを通して気づいてほしいと考えた。

#### 4 本時における「多面的・多角的な見方」のとらえ

多面的は、「一番すてきなところ」と発問することで、信二、めぐみ、太一、クラスのみんなどといった様々な視点から物語を考えさせる。

多角的は、友情、信頼だけでなく、希望と勇気、努力と強い意志、親切、思いやり、相互理解、寛容、公正公平という部分も認める。

#### 5 別葉より本時の位置づけ

|                   | 9月   | 10月 | 11月 |
|-------------------|--|-----|-----|
| 人権をふまえた<br>3年生の取組 | あいさつ運動B【礼儀】<br>福祉実践教室B【親切、思いやり】  |     |     |
| 道徳                | 水やり係<br>目の前は青空(本時)<br>B(10) [相互理解、寛容] B(9) [友情、信頼]   |     |     |
| 他教科・行事<br>との関連    | 特別活動(男女なかよく) B [友情、信頼]<br>算数(10 重さ)<br>B(9) [友情、信頼] / C(11) [規則の尊重]<br>国語(生活の中の言葉)<br>B(9) [友情、信頼] / B(10) [相互理解、寛容] |     |     |

## 6 本時の授業

(1) **ねらい** 友達と助け合うことのよさについて考えさせ、友達とのよりよい関係を築き、助け合おうとする心情を育てる。

(2) **準備** 【教師】読み物資料、挿絵 【児童】道徳ノート

### (3) 過程

|                  |   |   |   |
|------------------|---|---|---|
| <p>学習活動と主な発問</p> | <p>1 1学期に行った校外学習を思い起こす。</p> <p>1学期の校外学習はどうでした</p> <p>2 教材「目の前は青空」の読み聞かせを聞いて、登場人物の気持ちや考えを話し合う。</p> <p>(1) 教材の前半の読み聞かせを聞いて、登場人物の心情を話し合う。</p> <p>信二やめぐみはどんな気持ちかな</p> | <p>(2) 教材の後半の読み聞かせを聞いて、物語で1番すてきな所を話し合う (フリートーク→全体)</p> <p>お話で一番すてきなところはどこかな</p> <p>【補助発問】</p> <p>どうして信二やみんなは太一の手助けをしたのかな</p>  | <p>(3) 本時の授業を振り返り、話し合う。</p> <p>助け合いのよいところは何だろ</p> <p>3 本時のふりかえりを書く。</p>   |
| <p>板書</p>        |   |   |   |
| <p>支援</p>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入の発問で、校外学習のことを思い起こさせることで、教材と生活経験を結びつける。</li> <li>教材の前半の読み聞かせを聞いて、登場人物の気持ちを考えることで、後半の登場人物の心情の変化に気づけるようにする。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が感じ取った物語のすてきなところを話し合わせることで、友達との考えの違いから、多様な考えに触れさせるようにする。</li> <li>多様な考えを出し合い、自分の考えを深めるために、フリートークでは、「でも」「たしかにそうだね」といった反応の話型を取り入れる。</li> <li>「どうして信二やみんなは太一の手助けをしたのかな」という補助発問を取り入れることで、困難に立ち向かう太一の姿の素晴らしさにも気づけるようにする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>助け合いのよさを考えさせ、話し合うことで、助け合いのよさを明確にし、友達と助け合おうという心情を高める。</li> <li>自分自身の生活へと立ち返らせることで、自己の生き方について考えを深められるようにする。</li> </ul> |